

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

10. 呼吸器系の疾患 (インフルエンザ、鼻炎を含む)

文献

河村研一. A 型インフルエンザ患者の咽頭からのインフルエンザウイルス消失時間は、2 社の麻黄湯とオセルタミビルで差がなかった. *小児科臨床* 2009; 62: 1855-61. [MOL](#), [MOL-Lib](#)

1. 目的

2 社の麻黄湯とオセルタミビルの A 型インフルエンザ患者の咽頭からのインフルエンザウイルス消失に対する有効性の評価

2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験 (quasi-RCT)

3. セッティング

診療所 1 施設

4. 参加者

インフルエンザ迅速診断キットで A 型陽性であったインフルエンザ患者の内咽頭ぬぐい液よりインフルエンザの消失を確認できた症例 172 名

5. 介入

Arm 1: テイコク麻黄湯エキス顆粒 0.13-0.20 g/kg/日 3 x 1-6 日間 64 名

Arm 2: ツムラ麻黄湯エキス顆粒 0.11-0.21 g/kg/日 3 x 1-6 日間 61 名

Arm 3: オセルタミビル 2.1-4.4 mg/kg/日 2 x 1.5-5 日 47 名

6. 主なアウトカム評価項目

解熱時間、全身症状

7. 主な結果

内服後解熱時間は Arm 1, Arm 2, Arm 3 でそれぞれ 45.73 ± 35.51 時間、 53.90 ± 39.42 時間、 30.36 ± 20.96 時間で Arm 3 は Arm 1, 2 に比べて有意に短かった ($P < 0.01$)。平均発熱期間は Arm 1, 2, 3 でそれぞれ 67.27 ± 37.88 時間、 69.57 ± 39.76 時間、 45.79 ± 21.05 時間で同様に Arm 3 は Arm 1, 2 に比べて有意に短かった ($P < 0.01$)。症状消失までの期間は Arm 1 で 70.47 ± 41.99 時間、Arm 2 では 73.95 ± 43.01 時間、Arm 3 では 48.47 ± 26.90 時間で Arm 3 が Arm 1, 2 に比べて有意に短かった ($P < 0.01$)。発症後インフルエンザウイルス消失までの時間は Arm 1, Arm 2, Arm 3 でそれぞれ 98.00 ± 31.83 、 101.72 ± 34.39 、 95.91 ± 30.80 で有意差は無かった ($P > 0.05$)。解熱後インフルエンザウイルス消失までの時間は Arm 1, 2, 3 でそれぞれ 31.73 ± 44.26 、 32.15 ± 36.61 、 50.13 ± 32.84 で Arm 1, 2 は Arm 3 に比べて有意に短かった ($P < 0.01$)。

8. 結論

オセルタミビルは麻黄湯よりも早期に解熱させ症状を改善する。テイコク麻黄湯、ツムラ麻黄湯、オセルタミビルの A 型インフルエンザウイルスの咽頭からの消失効果は同等である。テイコク麻黄湯とツムラ麻黄湯は発熱期間、症状有期間、咽頭からのウイルス消失時間は同等で効果に有意差はない。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

本論文は、2 社の麻黄湯とオセルタミビルの A 型インフルエンザに対する有効性の比較臨床試験である。本研究は来院順に薬剤割付がなされた準ランダム化比較試験である。オセルタミビルは麻黄湯よりも早期に解熱させ症状も改善する。一方オセルタミビルのインフルエンザウイルスの消失効果は麻黄湯と同等であったのは興味深い。2 社の麻黄湯の効果に差がなかったことは日本の漢方製剤の均質性を証明している。

12. Abstractor and date

岡部哲郎 2013.12.31